



令和5年度 「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」 中間報告

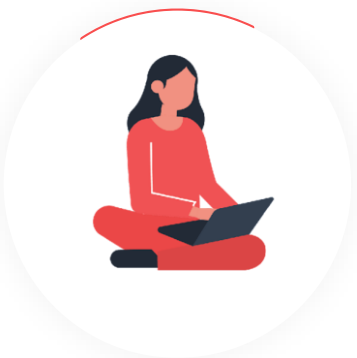
2023/11/22
株式会社YStory

最先端のAI Technology・Medical Scienceを活用して
パーソナライズのヘルスケアを35+女性に提供

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

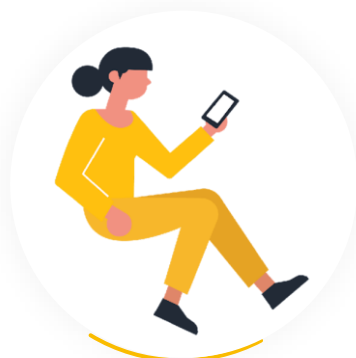


ヘルシーリテラシーの向上に向けて、最先端な技術やポジティブ・エイジングの解決策を提供。女性健康のプラットフォームを実現することで大人の女性も素晴らしい人生ストリートができるように価値提供したい。



Understanding & Self-caring

- 女性のヘルシーリテラシーを高め、自分の体を理解・管理することに価値提供したい
- 更年期の各症状を管理することを日常ルーティンに変えたい



Science & Technology

- 最新のメディカルサイエンスを活かして、女性健康に価値提供したい
- 最先端のテクノロジー技術を活かして、女性健康に価値提供したい



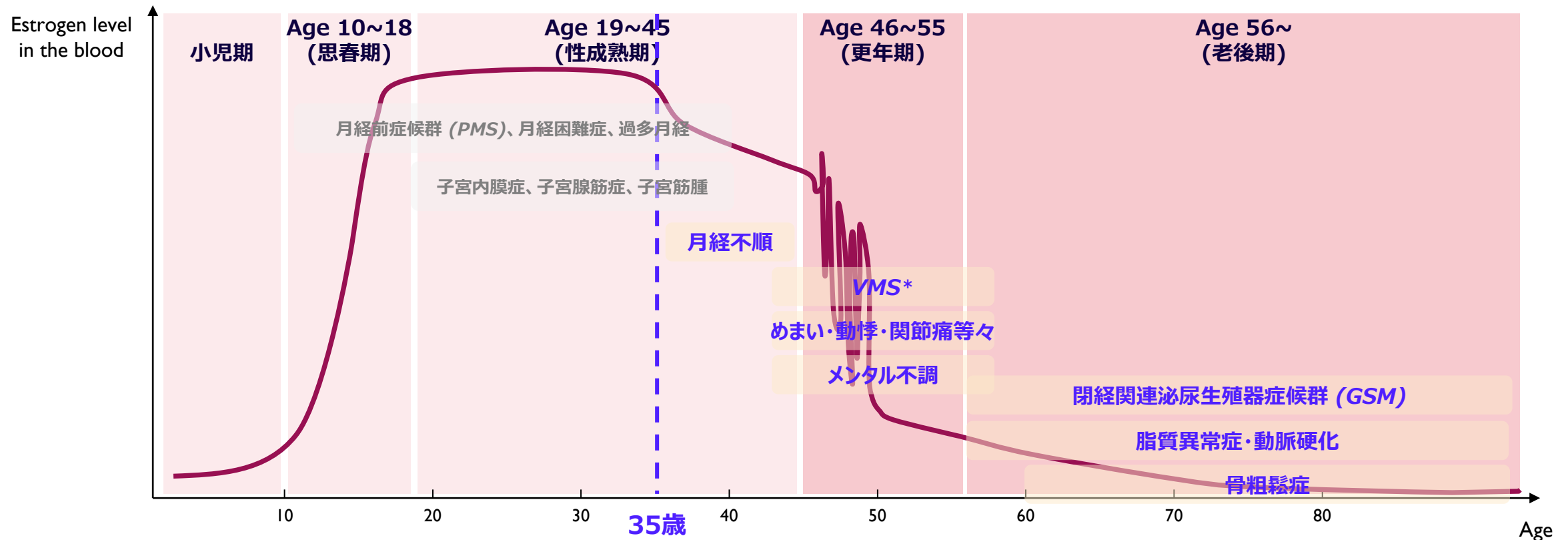
Positive Aging

- ポジティブ・エイジングの実現に向けて、効果のある解決策を探索し、世の中に提供することを目指したい

女性健康における更年期の重要性について

30後半より女性ホルモンが低下し、40～50代にてホルモンの上下変動によりホットフラッシュ・めまいなど様々な不定愁訴が現れ、更年期というステージに入ります。老後期にもその影響で疾患発症ある。

Hormone(Estrogen) changes with women life stage



Source : YStoryより分析。

※VMS (vasomotor symptoms) =血管運動神経症状“ホットフラッシュ”のぼせ・ほてり・汗

本実証試験にて、AI・メディカルサイエンスを活かした更年期のセルフケアアプリを用いて、データ収集・効果検証を実施し、エビデンスのある更年期デジタルソリューションを開発・提供することを目指す。

事業概要・目的

背景と概要

- [更年期ステージにある女性人口\(35～65歳女性\)は2400万人¹](#)であり、そのうち、更年期に離職する女性は毎年46万人²にも及び、その[経済損失は年間4200億円²](#)にのぼります。
- 更年期症状に苦しむ女性は、その診断及び適切な治療法を見つけるためのプロセス、および継続した通院に大きな[時間的・心理的負担](#)を要しています。
- また、更年期の不定愁訴の症状は多岐にわたることから自身の症状管理や変化の把握、ならびに情報収集は容易なものでなく、35歳以上の女性の健康実現のための[サポートが全般的に不足](#)しているのが現状です。

実証試験 目的

- [AI・メディカルサイエンスを活かした更年期のデジタルヘルスケアアプリ『HerLife』](#)(特許出願中)を通じて更年期症状がある方のヘルスケアに特化したサービスを提供しています。
- 当アプリには症状の記録および、[個別化されたヘルスケアのアドバイスを受ける機能](#)が含まれております。またヘルスケアのアドバイスの詳細の例としては、[医学的エビデンスに基づく症状管理アドバイスやセルフケア提案、医師とのデータ共有を通じた効果的な診療支援](#)等がございます。
- 当サービスを通じ、我々はより多くの女性たちの身体的・心理的症状の改善と、一層ポジティブで健康的な生活の実現を目指しています。

Source : YStoryより分析。

※1 : 国立社会保障・人口問題研究所日本の将来推計人口（全国）より弊社試算

※2 : NHK「「更年期離職」キャリア絶たれ... 莫大な経済損失も 国は調査へ」

実施項目とスケジュール

本実証試験に向けたソリューション開発、参加者募集を完成し、
10/14~10/15の実証試験説明会を踏まえて、正式開始している。

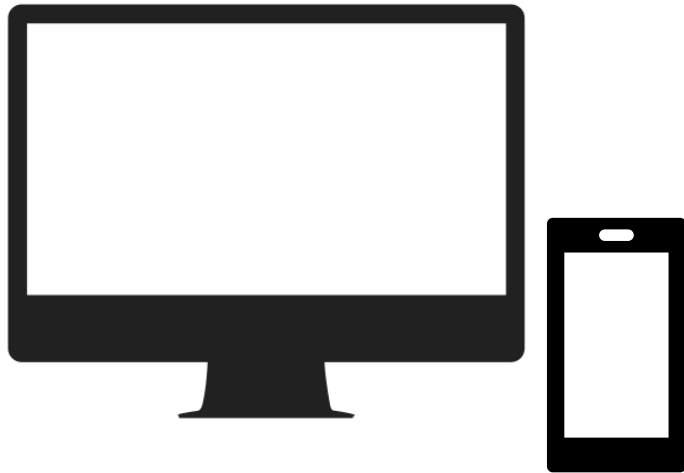
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施項目 1 ソリューション開発	YStory & 京都大学医学部附属病院産科婦人科 女性健康医学研究室								
実施項目 2 フィールド募集・ 適格者選定		特定非営利活動法人 健康づくり0次クラブ							
実施項目3 ソリューション提供				YStory & 京都大学医学部附属病院産科婦人科女性健康医学研究室 (一般財団法人 滋賀保健研究センターは一部活動参加)					
実施項目4 検証結果の分析									YStory & 京都大学医学部 附属病院産科婦人科 女性健康医学研究室

本日

実証試験の達成状況 As of 11/22

7月から京都大学との共同研究より、試験用デジタルソリューションを開発完了。
8月から試験募集の準備を開始し、9月～10月にて適格基準者を募集済、現在試験中となる。

実施項目 1 ソリューション開発



- ✓ 京都大学との共同研究で、医師側ソリューション、ユーザー側ソリューションがすべて開発済み
- ✓ 試験開始後も、トラブルなく順調に使用されている

実施項目 2 フィールド募集・適格者選定



- ✓ 8月より試験参加者の募集を計画開始
- ✓ 9月～10月にて、特定非営利活動法人健康づくり0次クラブより994名以上の対象者を案内し、213名試験参加の登録者から、92名適格基準者を選定した

YStoryを代表団体として本取り組みを進行していて、医学的知見の提供などは京都大学医学部附属病院産科婦人科女性健康医学研究室より実施。以下のような参加団体より構成。

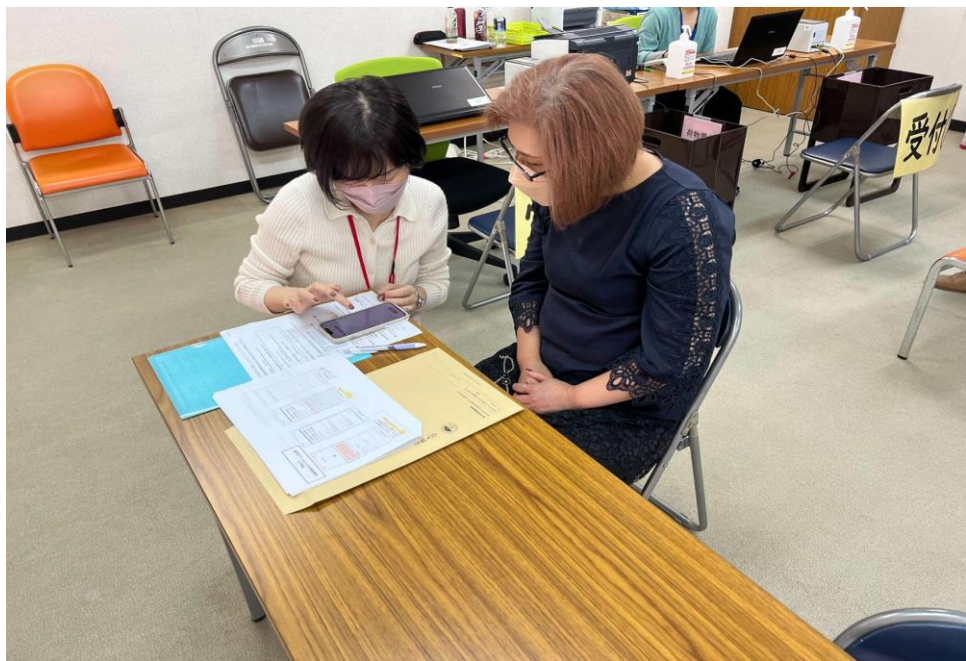
参加団体概要



実証試験開始日の様子

特定非営利活動法人健康づくり0次クラブのフィールドのうち、40～50代女性900+名に案内し、適格基準者92名を募集できて、現在試験参加されている。

実証試験の説明会



参加者に対して試験内容を説明してアプリをダウンロード



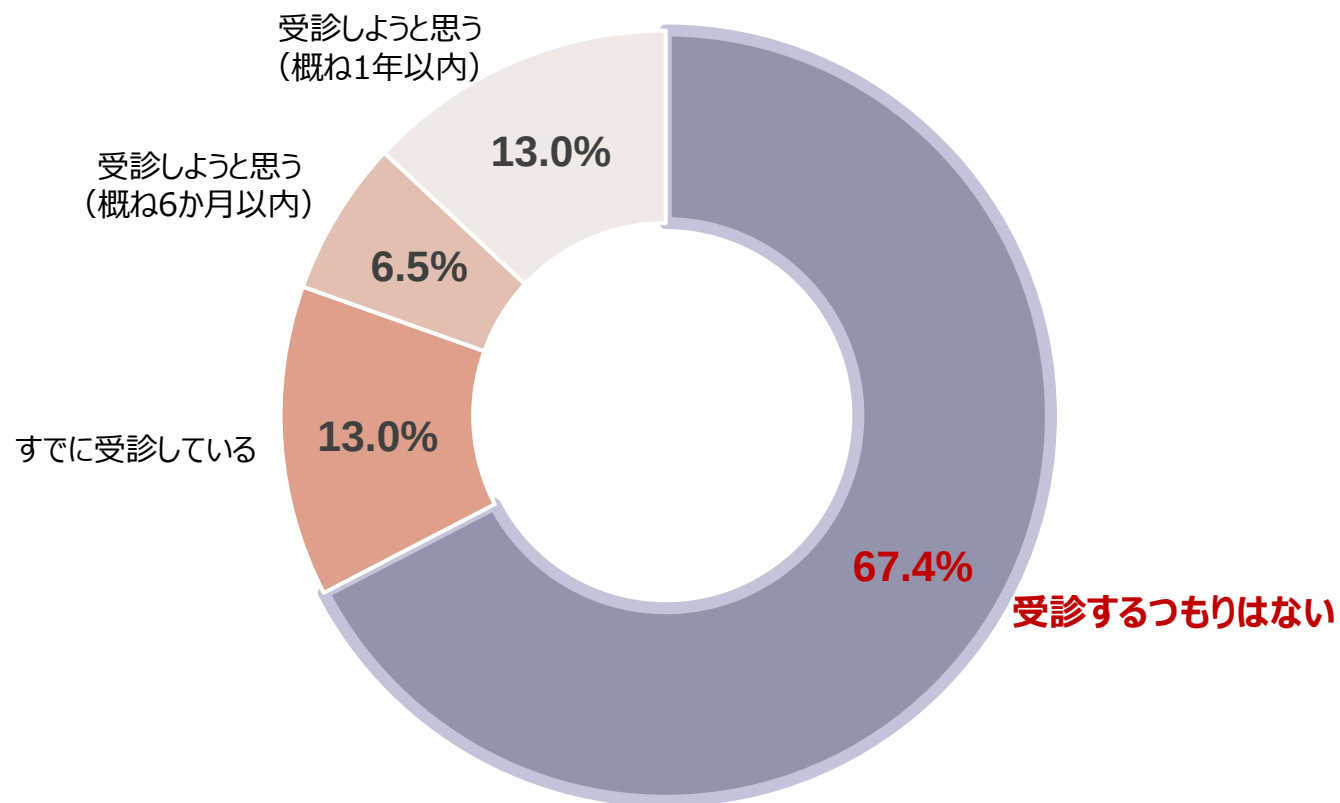
参加団体の集合写真

女性の更年期健康ケアにおける課題と対応策

初回アンケートにて67%女性が「医療機関を受診するつもりがない」を回答。今後は、デジタルソリューションを活かして、ヘルシーリテラシーを強化し、セルフケアが実践できるよう行動促進を強化検証。

現状の更年期健康ケアに関する課題と対応策

Q：更年期の心身の不調について医療機関を受診してみたいと思いますか？



- 受診率の低い理由として、
①ヘルシーリテラシーが低く、抱えている症状が更年期症状であることが認識されていない。
②症状に悩んでも、受診のサインがわからない、クリニックに行くタイミングはわからない。
③所在地域にて、更年期医療を提供できる産婦人科がない、かかりつけ医が不在。
などが考えられ、今後試験中にて解決案を検討。
- 対応策として、セルフケアのデジタルソリューションより、
①更年期や女性健康に関するヘルシーリテラシーを高めるプログラムを提供
②診断データなどを用いて、遠隔でもセルフケアを実践できるよう行動促進を強化、重症化の予防対策を提供

お問い合わせ先

contact@ystoryfemtech.com

<https://www.ystoryfemtech.com>

